

令和元年度 第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和2年2月17日(月) 15:40~16:50

場所 校長室

1. 開会
2. 校長挨拶
3. 事務局報告

平成31年度「学校経営計画及び学校評価」の報告(校長)

令和2年度「学校経営計画及び学校評価」の説明(校長)

学校教育自己診断(校長)

- ① 各分掌・各科系の報告(分掌長・科系長)

教務部・生活指導部・進路指導部・保健人権部・総務部・普通科・産業創造系・機械系・電気系

- ③ 佐野工科地域コンソーシアムの報告(教頭)

4. 全体協議

目標達成、課題解決に向けた取組について

- 平成31年度 学校経営計画及び学校評価中の本年度の取組内容及び自己評価についてはほぼ成果が出ているようですが、学校 Web ページの更新の空欄はどうなっているか?

Ans. これについては途中段階で、年度末に入力する予定であり、現状で200回は超えている。

- さらに頑張っていたらと思う。

生徒相談満足度が△になっているが、これはどのように判断しているのか?

Ans. 基本は×をつけないので、△というのは十分ではないということです。学校教育自己診断の数値が目標60%のところ57.5%に留まっているためである。目標設定の数値も毎年どの辺が妥当か、これを見ながら判断している。

- 教員のアンケート結果は昨年と比べて下降気味であるようだが、これについては様子を見ていくのか。

Ans. 教員が正直に答えていると感じる。課題として次年度の取組とする。

- 中期目標の期間の目安はいつまでか。

Ans. 3年間の目標。次年度から3年間。

- 学校が現状のままでいいのかというアンケート質問に対しては何か意見はあったのか。

Ans. 自由記述ではないので具体的にはわからないが、こうであればいいのにと意識を持つことが大切であるので、見方によっては数値からも読み取れる。

- 進路指導に関しての数値は上がっている。これは生徒への就職に対する目的意識やものづくりを通しての職業観を指導されている結果だと思う。例えば、ロボット相撲など様々な大会参加で優秀な成績を修めた生徒などは自信をもって社会にでていける。社会人になる前に実力を試すことができるのもうれしいのではないか。

- 保護者に対してのアンケートで入学満足度が上がっているのも、資格取得やものづくりの大会、コンテスト等でよい結果が出せているところが良かったのではないか。

- (広報の手段として) ブログ、YouTubeなども含め、外へPRをどんどんやっていけば、入学希望者も増えるのではないか。

○ PTA からの今年度の情報発信としてはどのようなものがあるか。

Ans. オープンスクールにたくさん来てくれたことが良かった。

Ans. オープンスクールに参加した中学生のアンケートでは、本校に入学したら就職に強い、資格が取れるなどしっかり把握している生徒が多く、世間一般の中学生の中でも意識、関心が高いことがわかる。

○ 希望者の中には HP で知った人が多かったのか。

Ans. これについては中学校の先生からの勧めが多いようである。

ここ数年、工科高校全部が入学志願者減少でしんどかった。そこで学習塾の先生への PR も行った。現在の 3 年生は退学者を減らす努力をし、在籍数 250 名を超える卒業生を出せている。入学時には定員が割れ、様々な課題を持つ子どもも入学しているが、粘り強く指導をしてきたことに対して、中学校の先生方にご理解と支持をいただいている状況である。

○ 課題を持った生徒に対する指導の具体的な例が、習熟度別の少人数展開授業なのか。

Ans. 習熟度別の授業の目的は基礎学力向上のための保障である。課題を持つ生徒の指導とは、障がいによる学習支援の必要な生徒に対してのきめ細やかな個別の指導のことを示している。実際は様々な保護者や家庭があり、就労に関しても障がい者手帳を使うか否かなども要望により個別に対応するなど難しい面がある。しかし、そういった生徒の中にも中学校時に不登校であったのに本校で卒業が決まったときには喜びの声を聞くこともあった。

○ 地道な日ごろからの指導とそれに加えての広報 PR の努力の結果ですね。

○ 進路指導部の分掌目標の達成状況で、就職 1 次試験に応募した 174 名の生徒に対し、150 名内定で 2 次試験には 21 名が臨んだとあるが、24 名中の残り 3 名はどうなったのか。

Ans. 3 名は学校斡旋から変更になり、保護者のほうで知り合いを通じて決めた。

○ 令和 2 年度 学校経営計画について中期目標を再度詳しく説明を求める。

Ans. 項目の順序については、生徒を教育するうえで最も大切にしたい順に入れ替えた。最初に「基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成」を挙げている。生活指導部の遅刻を減らす取組にあるように、社会に通用する人材を育成するためにはとても重要なことである。2 番目に、新学習指導要領のめざすところにある「確かな学力」の育成であり、課題解決型学習や探求を通して、思考力・判断力・表現力を育成することにより、知識や技能を外に発信して活用できるようにすることが重要である。3 つ目には「生徒一人ひとりを大切にした教育の推進」、4 番目に「地域と連携した開かれた学校づくり」に取組、地域から大事にもらえる学校であることを目標にしている。

○ 極端に目標数値を上げることなく、継続できることを重点にしているのが、よく理解できた。

令和 2 年度の学校経営計画及び学校評価について委員一致で承認をする。

Ans. ありがとうございます。

5. まとめ

○ 今後の課題、難しい点は何か。

Ans. 今の子どもたちは職業に対しての感覚が幼い面がある。高卒全体の離職率は 4 割、工業系専門高校については 3 割弱といわれている。授業に必要な予算にも制約がある中で、3 年間で社会に活かせる力をつけさせるのに、日々、教員は工夫や努力をしている。同時に働き方改革により、

教員の負担感を減らすことも必要であり、スクラップ&ビルドの難しさが問題である。

○ ICT 機器の導入にも予算面では苦慮されているようだが、うまく活用して不必要な労力を軽減できるようになればいい。

Ans. そのほかで時間の有効活用のために、会議は短く、1 時間以内で終わらせるようにしており、それは一定の効果を出せている。生徒一人ひとりにかかる時間を増やすためにも今後も努力する。

6. 校長挨拶

7. 閉会

- ・連絡事項 令和 2 年度運営委員委任と運営委委員の任期について
次回日程